

コバルト

コバルトのロー・グレードコバルト市場は上値追いが続く公算が大。年内にポンド33-35まで続伸しても早い時期に40の声を聞いてもおかしくない情勢だ。それだけ、コバルトを取り巻く環境はひっ迫している。流通市場でノリルスク



メタルドゥ社長

藤田 國廣氏

40ドルへ上値追い

コバルトのロー・グレードコバルト市場は上値追いが続く公算が大。年内にポンド33-35まで続伸しても早い時期に40の声を聞いてもおかしくない情勢だ。それだけ、コバルトを取り巻く環境はひっ迫している。流通市場でノリルスクット会社とクレンコアがコバルト、バナジウム、モリブデンなどを投資商品として売り出すことを企画している。この企画も情報もある。この企画

には多岐にわたる品質管理等をどうするか、LMFのような透明性があるかなどの懐疑的な見方もある一方、新規投資者を導くには最

適と好感する見方もある。さらに南アの政情不安で鉱石プロジェクトが遅れている中、今後需要は電池・スーパーアロイ向けを中心に

年率6-7%成長が見込まれている。しかし現時点ではコバルトに変わる電池・スーパーアロイ向けの代替材料が見当たらない。またコンゴからの原料調査が十分にできず、中国内での酸化コバルト、電解コバルトの供給がタイト(中国市場ですでに32-32・8、それも数トン単位しか取引されていないこと)等から見て、このまま高値更新波動を続ける予想している。

ニッケル

ロン ドン金 00から2万5000がへ55%近い暴落を演じ、国内メーカーのフォーミュラを崩すことになった。結果的にド資金が再び金属に向



メタルドゥ社長

藤田 國廣氏

3万ドル軸に上下動

ニッケル 00から2万5000がへ55%近い暴落を演じ、国内メーカーのフォーミュラを崩すことになった。結果的にド資金が再び金属に向

くことが考えられるためだ。またFRB(米連邦準備理事会)の金利引き下げで、ファンド資金が再び金属に向

か余地が生じており、目先は7-9月期の下げ過ぎは正の動きが続くとみている。

もっとも一定の戻りを達成したあと、年明け以降は再び下れることを予想している。生産コストからすると相場が高水準にあることは間違いなく、2-3年先の増産態勢が見え始めている現在、本来の実需とLMFの関係に戻ると仮定すれば下げやすい環境になるからだ。場合によれば2万が割れも想定しないでもない。ただステンに關しては内外から現状価格は安過ぎる、とみられており、水準訂正されてしかるべきだろう。